

「終わりの日」が始まった

使徒2：14～21

1、 の に目が開かれた

知識が豊富という事ではなく、聖書が何を告げているのかについて目が開かれた。

神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄の
分かれ目さえも刺し通し、心のいろいろな考えやはかりごとを判別することができます。

ヘブル4：12

聖書が神の生きたことばとして自分を照らし、新しくされた人として生きるようになる。

大勢の人を前にイエスキリストについて語ったペテロ。一介の漁師であったが・・・
イエス様が語られた「聖書がわたしについて証言している」
と言われたことばの意味を悟り語った。

そして・・・

①聖霊が臨まれた意義 ②イエス様がメシヤであったこと
これらについて聖書のことばを自由自在に使って、語るようになった。

2、 の について目が開かれた

イエス様のなさった御業やことば。知っている、わかっていると思っていた事さえも、
わかっていなかった。そのことに気が付いた。

わたしには、あなたがたに話すことがまだたくさんありますが、今あなたがたはそれに耐える力が
ありません。しかし、その方、すなわち真理の御霊が来ると、あなたがたをすべての真理に
導き入れます。御霊は自分から語るのではなく、聞くままを話し、また、やがて起ころうとしている
ことをあなたがたに示すからです。 ヨハネ16：12, 13

これが、ペンテコステの日以降に実現した。

5旬節・・・ユダヤの3大祭りの一つ（過ぎ越しの祭り・7週の祭り・仮庵の祭り）
小麦の初収穫を刈り入れる 「刈り入れの祭り」とも言われる。
地中海沿岸各地にいるイスラエル人が、礼拝を捧げるために
エルサレムに帰ってきて、町は沢山の人でにぎわっていた。

一体ここで何が起こったのかと怪しむ人達にペテロは、旧約の預言者ヨエルのことばを引用し、今起こっていることについて語り始めた。

3、 の が注がれる

「終わりの日」・・・人の子として救いの道を完了されたイエス様が、王の王として再臨されるまでの時代。

教会が誕生 ～ 現在進行形

主の名を呼ぶ者は、みな救われる！

旧約の時代は、特定の人だけに主の霊が注がれ、主の御用をした。

しかし、終わりの日には、神の霊がすべての人に注がれる。

息子・娘は預言し、青年は幻を見、老人は夢を見る。

特定の人以外には与えられていなかった領域が、この日以来解放された。

聖霊に満たされて・・・

主の偉大なビジョンを持って生きるようになって

現代の預言者として、力強く福音を語る者となる。